

# 米航空機リースを買収

## 住商など4社、1兆円超

### 新会社へ共同出資 旅客需要取り込む

住友商事や三井住友ファイナンス&リース（F&L）は2日、米投資ファンドなどと共同で航空機リース大手の米エアリースを買収すると発表した。買収総額は約74億ドル（1兆900億円）で、住商・三井住友陣営は管理・発注機数で業界首位のエアキャップ（アイルランド）に迫る。新型コロナウイルス禍後に回復している航空機需要を取り込む。

住友商事、三井住友F&L子会社で航空機リースを手がけるSMBCA（エーシオンキャピタル（SMBACA））、投資ファンドの米アポロとカナダのプルックフィルドの4社共同出資の新会社を通じてエアリース株全株を取得する。新会社への出資比率は住友商事が37.5%、SMBACAが25%、アポロとプルックフィルドがそれぞれ18.8%。

2026年4～6月期中の買収完了を見込んでおり、米因株式市場に上場するエアリース株は上場廃止になる見通し。エアリースの24年の売上高は約27億ドル。航空機リースの管理・発注機数は約800機と世界4位で保有機体の平均機齢は約5年と新しい。三井住友ファイナシャルグループと住友商事が折半出資する三井住友F&L傘下で2位のSMBACA（約1000機）と合わせ、エアキャップの約2100機に並ぶ規模になる。住友商事は傘下に保有機数で世界2位のヘリコプターリース会社や航空

管理・発注機数で業界首位に迫る

順位	航空機リース会社	管理・発注機数 (2024年末)
1	エアキャップ	2074機
2	<b>SMBC AC+エアリース</b>	<b>1840</b>
3	SMBC AC(三井住友FL系)	1010
4	アポロン(オリックス系)	982
5	エアリース	830
6	BOCアビエーション	710
7	ICBCリーシング	640

機の中古パーツの販売会社を持つ。世界5位の航空機のエンジンリース会社にも三井住友F&Lと共同出資している。航空機リースのビジネスを通じて、中古パーツやエンジンリースの契約につなげるなど既存事業とのシナジーが出しやすいと判断した。

住友商事の航空機事業は堅調だ。事業利益は25年3月期に24年3月期比36%増の185億円だった。31年3月期までに300億円超に伸ばす計画だったが、エアリース買収で目標の達成を27年3月期に前倒しする。

住友商事は27年3月期に25年3月期比16%増の6500億円の純利益を目指す中期経営計画で、業界首位を狙える事業に経営資源を集中する戦略を掲げる。好調な航空機事業への投資を拡大し中計の確実な達成を狙う。

新型コロナウイルスで落ち込んだ世界の旅客需要は回復している。日本航空機

開発協会の予測では43年の世界の旅客需要は19年の2.3倍に増える見通し。アジア太平洋や欧州を中心に需要拡大が見込まれ、航空機リースの市場の拡大が期待される。

英データ分析会社のCirium（シリウム）と日本航空機開発協会によると、主要ジェット輸送機の受注残は24年に1万6727機と過去最高となった。米ボーイング社の品質問題などもあり、世界的に航空機の製造が追いつかない状況が続く。航空機メーカーに大量発注できる購買力が競争力につながるため、住友商事や三井住友F&Lは規模の拡大を急ぐ。

他社では4月に伊藤忠商事が航空機リースの新会社を立ち上げた。三菱HCキャピタルは26年以降、リース用の航空機エンジンの保有数を1割増やす方針だ。

新造機の供給不足を商機と捉え、丸紅は中古部品の販売や機材の整備事業に注力する。買収も進めて、25年3月期に約130億円だった航空機のアフターマーケット事業の利益を28年3月期に190億円に伸ばす。